

第 62 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地環境の順応的管理—

6月の研修会は、先月に引き続き湿生生態園の植生管理作業及び、ホトケドジョウのビオトープ再生を行いました。



先月に田植えを終えた谷戸山公園の田んぼはイネが分けつを始め、青々としてきました。
畦にはミゾカクシ(左)やケキツネノボタン(右)などが花を咲かせていました。



午前の研修は、湿生生態園の植生管理です。
これまでの作業でアカバナ(左)など何種かの水生植物が多く見られるようになってきました。
保全する植物や道具の使い方など注意事項を確認して作業開始。



多様な植生が回復するよう、主に繁茂したヨシを刈り取る作業です。
先月も刈ったのですが、もう伸びてきています。



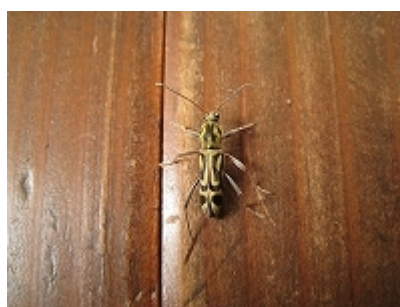
ヤブマオの葉の上には、ラミーカミキリが見られました。
ヤブマオやカラムシなどを食草とするカミキリですね。パンダカミキリなんて呼ばれたりもします。



続いて、植生調査です。湿生生態園の中に見られる植物を調査し、リストアップしていきます。
新たに確認されたものは公園の生物リストに加えていきます。



昼食中も熱心な参加者は講師の話に耳を傾けたり、質問したりしていました。



昼食後は、恒例の環境に関するニュースの発表と、秋に計画しているイベント案の提案を行いました。途中、室内にタケトラカミキリが飛び込んできました。

午後はホトケドジョウのビオトープ再生です。

先月までに湧水点から湿地を少し掘って流れを作り、ホトケドジョウの移動できる環境を作りました。掘りすぎると水が抜けて湿地環境を維持できなくなってしまうので、微妙な調整が難しい作業です。



先月作業した場所は埋まることなく、流れすぎることなく適度な流れになっていました。奥に見える緑はカサスゲ群落です。



水路の上を覆っているシラカシなどの常緑樹を間伐していきます。
水路に光が入って、ホトケドジョウの産卵に必要な沈水植物等が
生育できる環境を整えていきます。



昨年から続けているこの間伐作業の成果か、今年は林床で多くの植物が花を咲かせるよう
になっています。今回は、それらの花をメジャーと方位計を使って位置を記録しました。
今後も間伐等の作業の成果を、林床植生の継続したモニタリングで評価していく予定です。



最後にまとめと、質疑応答などを行い研修会は終了です。

現場に出ると必ず何か発見があり、その発見の積み重ねが知識や経験となっていきます。まだ参加されたことの無い方も、是非一度参加してみてください。現場でなければ気づけないものがきっと発見できると思います。